

# 感動一点の場

## 『北海道移民史（屯田兵時代）』

1943年 小川原 脩 画



1943年の5月下旬、小川原脩は二つの「北海道移民史」という作品を美術文化協会第4回展で発表しました。そのうちの一点、この人物群像は明治時代に開拓と警備の両方を担った屯田兵の姿を描いています。馬に跨る上官は立派な兵服に身を包む一方、地べたを歩く人々は農民身なりで、鋤を担ぎ、よろめいている人もいます。一団の先頭の足元、頭部が赤く塗られた木杭から先は、奥に広がる湿った原野を予感させ、北極星を模した大きな開拓使の旗のもと、上官が指し示す方向へ進もうとしています。「琴似屯田兵屋」「屯田兵服」「琴似屯田兵集合」とメモされたスケッチが残っており、小川原が1941～42年にかけて旭川の師団に入隊、出征したその前後、北海道内を移動した際に取材し、本作の土台になったと考えられます。

一心に開拓へ向かう集団の在り様を題材としたのは、1940年代に入って強く求められるようになった戦争協力のためであり、当時、前衛的絵画を志向しながらも「描き続ける」ことに強くこだわった複雑な心境が垣間見えます。この作品は損傷が激しく公開が見送られましたが、もうひとつの北海道移民史（土族移民時代）は、「小川原脩セレクション 花と鳥 1940's」で展示されています。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

## —侵略的外来種アライグマ その1—

# ふるさと探訪

433回

アライグマは北アメリカ原産で、もともと日本にはいなかった生き物で外来種と呼ばれています。外来種とは、もともとその地域にいなかった生物が人為的に他の地域から入れられて繁殖してしまった生物種のこと、時に生態系や経済に悪い影響を与えることがあります。アライグマは、日本生態学会により日本の侵略的外来種ワースト100の一つに選ばれるほど、外来種として問題視されています。では、アライグマとはどんな動物なのでしょう。

アライグマ（洗熊）哺乳綱食肉類アライグマ科アライグマ属に分類される哺乳類。前足を水中に入れて獲物を探る姿が手を洗っているように見えることが名前の由来です。体長40～60㎝・尻尾20～40㎝・体重4～10kg・長いふさふさとした尻尾に黒い横縞があるのが大きな特徴で、他の動物と見分けるときの目印になります。足跡にも特徴があり、人の手のような5本の指がくっきりとつきます。これは、他の中型哺乳類が指先を地面につけて歩くのに対し、アライグマはかかとをつけて歩くためです。基本的に水辺近くの森林に生息しますが、農耕地や市街地などの幅広い環境に適応できる上、雑食性で農作物・昆虫・カエル・サンショウウオなど何でも食べます。繁殖力も高く、日本にはアライグマを捕食する天敵がないため急激な勢いで生息域を広げています。倶知安町では昨年49頭が捕獲されていて、身近な問題としてアライグマと向き合わなければならないのです。



文：森脇 友行（倶知安風土館 学芸補助職員） ▲町内で捕獲されたアライグマ

## 美術館 展覧会のお知らせ

### ■常設展示

小川原脩展 「私の中の原風景」

アジア各地を旅し、自らの原風景を再発見した小川原脩。大いなる自然と素朴な人々の暮らし、動物たちとの対等な関係など、幼少の頃を過ごした北海道開拓期と重なる世界観を展開する作品群を中心に、画業全体の根底に流れるイメージの原型を探ります。

会期：開催中～8月4日(日) 会場：第1展示室

### ■企画展示

小川原脩セレクション「花と鳥-1940's」

シュルレアリスム（超現実主義）運動に身を投じた1940年代初頭から、戦争へと傾斜する時代を背景とした創作の変容まで、激動の1940年代をクローズアップします。



会期：開催中～7月7日(日) 会場：第2展示室

## 美術館 アート・イベントのお知らせ

### ■土曜サロン

世界美術館紀行Ⅱ～オランダ編「ゴッホ美術館／アムステルダム国立美術館／マウリッツハイス美術館」

4月からの新企画。お話しと映像で世界の美術館を訪ねます。

日時：5月4日(土) 14時～15時30分

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）  
アート探訪くみて・きいて>30「エミール・ガレー～知られざる美の世界」

ガラス芸術の巨匠が生み出すアール・ヌーヴォーの華麗な世界。

日時：5月11日(土) 14時～15時00分

お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

### ■ワークショップ

「むつ先生と絵あそびしよう！ へんなかたち へんなかたち へんなかたちになあれ」

申し込みは不要。直接会場へお越しください。

日時：5月18日(土) 10時30分～15時(時間内いつでも参加可)

講師：宮崎むつ先生（画家） 会場：当館ロビー（無料）

### ■アート・シネマ館

「ル・コルビュジェとアイリーン」2014年 / ベルギー・アイルランド（字幕）

モダニズムはなやかなりし時代、二人の天才建築家が繰り広げる人間模様を美しい映像で綴ります。

日時：5月25日(土) 14時～15時50分 お話し：柴 勤（当館館長） 会場：当館映像ルーム（無料）

## 風土館 イベントのお知らせ

### ■第1回ふるさと探訪（観察会）「春の岩屋海岸と花々」

豊浦町の岩屋海岸へ向かいます。道南らしい花々と森で、一足早く春の訪れを感じてみませんか。3～4時間程度沢沿いの道を歩きます。長靴かトレッキングシューズ必須です。

講師：矢吹 全（ニセコネイチャーガイド・フォレストレック主宰）

日時：5月10日(金) 8時～16時（倶知安風土館集合） 定員：先着10名（公用車で現地へ向かいます）

保険代：250円 申込：5月6日(月)までに倶知安風土館（☎22-6631）に電話で申込み



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※( )内は10名以上の団体料金

5月の休館日 毎週火曜日、8日

5月5日こどもの日は小中高生無料

### 美術館を楽しむ

「東京都庭園美術館」は、JR山手線目黒駅から歩いて10分。広大な庭園の一角にある旧朝香宮邸が、美術館へと姿を変えて40年近くが経ちます。4月の初め、しばらくぶりに足を運びました。白亜の建物、壁や窓、床、調度品、シャンデリアなど内部の優美でモダンなデザイン。朝香宮がパリ留学時代に魅せられた1920年代のアール・デコ様式は、なぜか気持ちを落ち着かせてくれます。人混みを避けたい時、美術館の雰囲気にとっぷりと浸りたい時、足を向けたい場所。美術館のあるべき姿を教えてください。

館長 柴 勤